

アーカイブズ

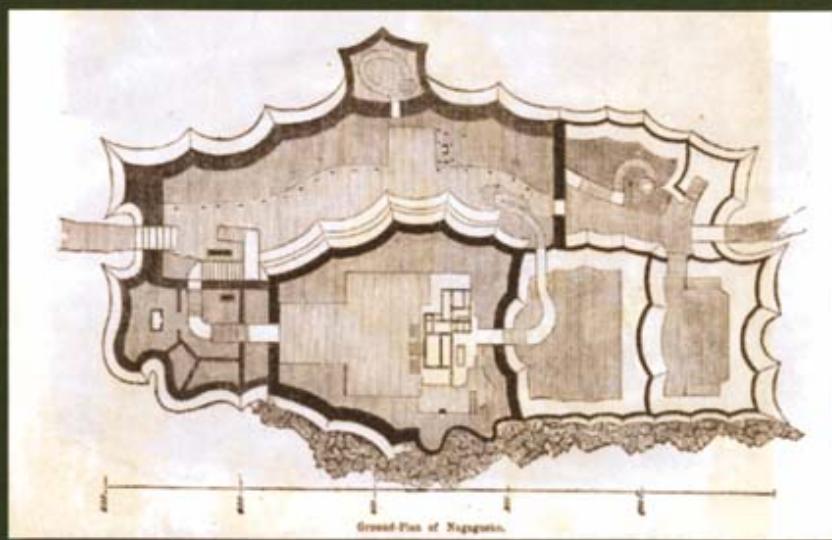
ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第13号

平成13年1月10日発行



ANCIENT CASTLE OF NAGAGUSUKU LEW CHEW.



Ground-Plan of Nagagusuku.

特集：資料情報のデジタル化

特集

資料情報のデジタル化

沖縄県公文書館は、琉球政府文書、USCAR文書、沖縄県文書をはじめ、沖縄の歴史や文化にまつわる文書や図書、地図、映像資料など、大量の資料を収蔵しています。収蔵資料を適切に保存管理し、利用者の皆さんに効率よく提供する道具として、当館では開館当初からコンピュータ・システムを導入してきました。

近年ではインターネットの普及にともない、ご家庭や職場に設置されたパソコンをはじめ、世界各地のインターネット端末から当館の収蔵資料検索が利用できるようになりました。当館では、さらに詳しい資料情報の提供をめざして、写真資料や書誌情報のデジタル化をすすめています。



まず、公文書館のデジタル資料を利用する窓口となる当館のホームページ、「ねつとOPA」を紹介します。

- ・展示室案内（現在実施中の展示会及び展示資料の案内）
- ・ビデオシアター（ビデオシアターまたはビデオプレスで上映できる映像資料の案内）
- ・催し物案内（講演会・講座・講習会・映写会の案内）
- ・お知らせ（近日公開予定の資料や特別休館日等のお知らせ）

②公文書館の概要

・公文書館の概要（設置目

(4) 収蔵資料検索

屋外に置き去りにされていた。「一九四五年撮影。電子展示室「アメリカが記録した戦後沖縄」より（出典は「占領初期沖縄関係写真資料」）

琉球政府文書を写真と解説付きで展示。また、沖縄戦後史年表や行政機構図を掲載しています。

- 公文書館の概要（設置目的、施設概要、施設の特色、開館までのあゆみ等）
- 施設の案内（各階の平面図、各部屋や書庫の写真と案内）
- 公文書館の仕事（公文書館業務の流れと概要）
- 収蔵資料の紹介（収蔵資料を資料群ごとに解説）
- 利用案内（閲覧室の利用方法や交通手段の案内）
- 電子展示室

す応やでととこ部処　　報あ世化
。さ書き11の分理コ　　デジタル化とは情報を数値
せ像るをを半がしん　　世界することです。デジタルの
てのばい対導半たりビ　　デジタル化とは文字であれ、音声で
情デタく応体導り、一タ　は画像である。文字は二進数で表現され
報ジーつさの電格納し　　ます。0と1の二進数で表現され
をタンもせ電で圧できては、情報は文字であれ、音声で
表ルに組て圧できたりす　　は画像である。文字は二進数で表現され
現デ文みいの高ていき　　ます。0と1の二進数で表現され
し1字合ま高ていき　　ます。0と1の二進数で表現され
てタやわす低いて　　ます。0と1の二進数で表現され
いを音せ。にてする　　ます。0と1の二進数で表現され
ま対声て00　　ます。0と1の二進数で表現され



ねつとOPA

トップページのメニューをクリックすると、次の内容の画面を開くことができます。

沖縄県公文書館におけるデジタル化事業

Q. 沖縄県公文書館ではどのようにしてデジタル化をおこなっているのでしょうか?

A. 紙やマイクロフィルム等に記録されているアナログ情報をスキャナー等の機器でデジタル情報に変換し、磁気ディスクや光ディスク等の媒体に記録しています。

デジタルの媒体にコピーされた資料を閲覧などの利用に供することで、資料の原本に負荷をかけずにすみます。また、ネットワークを介して遠隔地からの利用が可能になりますし、複数の利用者が同一の資料を同時に利用することもできます。

反面、パソコンやソフトウェア等の特別な再生環境を必要とすることから、記録媒体だけ保存しても利用者のアクセスを保障することができません。時代にあった再生環境とその環境に準じたデジタル情報に対応することが必要になります。そのような課題に対する検討も進めながら、当館では利用者に対するサービス向上を目的に、利用頻度の高い空中写真や琉球政府公報のデジタル化事業を実施してきました。このふたつの資料についてご案内します。

◇
展示会

空中写真のデジタル化

沖縄県公文書館では、米軍や国士地理院が撮影した、沖縄本島、宮古、八重山および周辺離島の空中写真四千三百九十二枚をデジタル化しました。平成十二年八月からは、デジタル化された空中写真の閲覧サービスを開始しました。パソコン画面上で、集落などを拡大して見ることもできます。このサービスは、閲覧室で行なっています。撮影地域や年代についての詳しい情報は、閲覧室にお問い合わせください。

◆展示会

展示室で開催中の企画展「空中写真にみる戦前・戦後 基地にかわつたふるさと」（平成十三年一月三十一日まで）では、一九四五一年一月、米軍が沖縄上陸を前に撮影した空中写

空中写真とは、飛行機などで上空から地上を撮影した写真です。航空写真とも呼ばれます。一般に、空中写真は、あらかじめコースを定めて飛行する航空機から、地上を連続で撮影して作成されます。

空中写真は地形図、土地利用図などの作成や、地質、災害、森林などの調査、土地利用計画の資料など、あらゆる用途に使われます。年月を経て変化してゆく地形や土地の様子を記録するため、国土地理院などでは毎年、または数年おきに空中写真を撮影しています。

空中写真

琉球政府は米国統治下の沖縄で一九五一年四月に発足し、一九七二年五月、沖縄の本土復帰に伴つて閉庁しました。司法・立法・行政の三権が分立していた琉球政府は、一国並の機能を備えた政府であつたといえます。その琉球政府が発行していくた公報は、国の官報に相当します。公報とは、公の機関が公示すべき事項を周知させるために発行する機関紙のことです。地方公共団体の公報には、条例、規則、告示、告諭、訓令、任免及び賞罰、褒賞、公告、通牒、紹介、広告等一般に公示する事項が記載されます。

琉球政府公報



高手納一帶。1945年1月3日米軍攝影。

真を中心に、米軍基地にかかる前の嘉手納や読谷の様子を展示しています。デジタルの技術で大きく引きのばした空中写真から、ふるさとの変遷の様子を見る事ができます。

ネットOPAが、2001年2月10日より装いを新たにします。特に、資料検索の機能が向上します。これまでではキーワードなどの文字による検索が主でしたが、新検索画面では、収蔵資料の目次を選択するごとに、さらに詳しい資料群名および解説が表示され、お探しの資料を体系的に絞り込んでいくことができます。

当館ホームページへの、皆さまの
「ご来館」をお待ちしています。



<http://www.archives.pref.okinawa.jp>

公報を調べることによつて、行政や社会の動き、たとえばさまざまな例規の改廃や組織変遷がわかります。また「琉球人の公休日」（一九五一年七月三十一日付）、「野国總管甘諸伝来三百五十年記念四円郵便切手發行」（一九五五年十一月二十五日付）といった、当時の人々の生活に密着した情報を得ることもできます。琉球政府公報は復帰前の琉球の姿を示す重要な資料です。

公文書館では一九五二年一月から一九七二年五月までに発行された琉球政府公報（琉球臨時中央政府のもとのを含む）を十六ミリマイクロフィルムで収集し（総リール数二十五、総コマ数五万七千二十五）、利用しやすいようにデジタル化しました。

二〇〇一年三月末からはホームペイジでも琉球政府公報の検索・閲覧ができるようになります。

新収蔵資料紹介

このコーナーでは、沖縄県公文書館が購入したり寄贈や寄託をうけた資料のなかから、最近の収集資料を中心にご案内します。

USCAR映像・写真資料

視覚メディアには、文字では十分に表現できない情報を記録し、伝えられる力があります。沖縄県公文書館は、画像の持つ記録性の特質を十分に認識し、映像フィルムや写真的な収集にも力を入れています。今回、新収蔵資料として紹介するのは、米国立公文書館に保管されているU.S.C.A.R（琉球列島米国民政府）の映像フィルムと米海兵隊の写真資料です。



「蓄音機から流れる曲に合わせて踊る島民」
(1945年4月16日撮影・米国海兵隊写真より)

米国ワシントンDCに駐在し、沖縄関連資料の調査・収集を行つてゐる当館スタッフからのたよりです。

済みです。米国立公文書館は、沖縄関係の写真資料も大量に所蔵しています。当館がこれまでに複製で収集した米国立公文書館所蔵の写真資料は一万六千三百五十枚にのぼります。最近収集したものは、沖縄戦の最中に米海兵隊が撮影した写真（約八百枚）であります。米国立公文書館のコレクションにはさまざまな光景が記録されますが、沖縄県公文書館は、その中から、沖縄県民や沖縄の風景がよく写し出されているものを優先的に収集しています。たとえば、戦火の犠牲となつた非戦闘員、收容所へと向かう住民たち、激しい戦闘で破壊された建物の写真などです。

この職に就いて三年ほど経ちました。日頃は米国立公文書館の閲覧室で資料調査と収集にあたつてはいるため、アメリカのアーキビストに資料について相談を持ちかけることも少なくあります。

調査といえば、米国立公文書館では目録のデータベース化が進んでおらず、まず、数百冊もある目録に目を通すことから始まります。ただし、各省庁が独自のファイリング・システムやマニュアルを採用しているため、記述法がまちまちで、中には数百箱の資料群をわずか一、二行で表した代物もあります。そんな時、欠かせないのがアーキビストの助けです。

あまり認識されていませんが、アーキビストとの「駆け引き」が調査の成否を決めてしまうことがあります。アーキビストにも得意分野があり、また、レファレンスのスタイルが皆違うため、こちらの欲しい知識を引き出すためには、質問の内容や聞き方に工夫をする必要があります。それでも、「この目録を見ろ」と、答えただけポンと出してくるアーキビストも問題です。「資料群の全体構造がこうなつていて、目録にはこれとこれがあり、この目録のこの辺りを探せば目当ての資料が出てくるはずだ」という説明は欲しいものです。それがないと、不安な気持ちのまま膨大な資料の「海」を独り漂う結果になつてしまします。こちらにはただでさえ言葉のハンディがあるのでから、下手なアーキビストに当たつてしまふとたいへんです。最初の「駆け引き」で敗れると、そのアーキビストの元へは行きにくくなつてしまします。

米国立公文書館には閲覧担当アーキビストだけで二、三十人います。その中で私自身が頼りにしているアーキビストが何名かおり、また、敗北を喫してしまつたアーキビストもあります。利用者にこそ「勝利」の満足感を味わわせるこの頃です。

（公文書専門員 仲本和彦）

アメリカ通信3

※「アーキビスト」とは公文書館の専門職員のことです。



土地整理事業の『記念帖』



土地測量のようす。『記念帖』より。

この度、北海道在住の郡司恵美子氏（沖縄出身）より『記念帖』が寄贈されました。全百六ページからなるこの記念帖（二十八センチ×四・五センチ）がいつ頃出版されたのかは不明ですが、沖縄県地図（沖縄本島・宮古群島・八重山群島）や土地測量の様子、首里城の正殿、守礼門、第八代沖縄県知事であつた奈良原繁男爵などの写真が掲載されています。このことから、明治三十二（一八九九年）明治三十六（一九〇三年）に実施された土地整理事業終了の記念に発刊されたものと思われます。

伊平屋島の新垣家文書

平成十二年十一月十六日、伊平屋島に保存されていた琉球王国時代の古文書九点が当館に寄託されました。これらは、伊平屋村議会議長の新垣文儀さんが保管していたものです。新垣さんは、これらの古文書を、沖縄戦中米軍に没収される不安を感じながらも避難小屋の下に埋めるなどして守つてきました。史料の劣化が著しく、保存状態について心配していたところ、公文書館の存在と役割を知り、今回の寄託となりました。これら古文書には、一八四九（道光二十九）年から一八七九（光緒五年頃）、新垣家の先祖が購入或いは筆写したもののが含まれています。表題には、具志頭親方御僕議書（ぐしちやんおやかたおんせんぎしょ）、萬歴書（わんれきしょ）、人道記実書（じんどうきじつしょ）、御教条（ごきょうじょう）、中山王代記（ちゅうざんとうだいき）、諸品注文集（しょしななちゅうもんしゆう）などと記されています。

これらの資料は琉球王国時代における儒教の基礎知識の教本や官吏登用試験の案文集などで、地方の役人の一般教養書でした。新垣文儀さんは幼い頃、雨天の日に、曾祖父の仙助氏が正座をし、これらの書物を朗

沖縄県百九十三名、鹿児島県百四名、東京府二十名、京都府九名など、全国三十四の自治体から合計四百一名となっています。

々と読んで聞かせてくれたことを記憶されています。ちなみに、仙助氏は、廃藩置県の際に、来島した処分官松田道之を見たことがあつたそうです。今後、公文書館では、県民の皆さんにご利用いただけるよう、これら資料を修復し、マイクロフィルムで複製していきます。



→新垣家文書の一部。写真の案文集には「メカルシ」の上演に関する書簡のやりとりや、孔子廟碑の建立、伊江島への検査派遣、役人の推举関係など多彩な内容の文案がある。

琉球国王の表文と奏本

当館では開館五周年を記念する特

沖縄県公文書館では、沖縄の歴史にまつわる文書や地図、写真などを収集しています。これらの資料は琉球王国時代における儒教の基礎知識の教本や官吏登用試験の案文集などで、地方の役人の一般教養書でした。新垣文儀さんは幼い頃、雨天の日に、曾祖父の仙助氏が正座をし、これらの書物を朗

別展として、「琉球国王表文奏本展」を開催しました。この展示会開催にあたり、琉球国王から清朝皇帝に送られた文書である表文と奏本のレプリカ（保存箱入り）百点を中国第一歴史档案館より収集しました。表文・奏本は、明や清の時代に臣下から中国皇帝に上呈された文書です。表文とは、皇帝に対する感謝やお祝いなどの意を表する文書（皇后へ宛てた同様の文書は箋文）です。また奏本とは、臣下側の訪中の経緯など、具体的な事柄を記した文書です。今回収集・展示した史料は、清の時代（西暦一七二三～一八七四）に即位した六代の琉球国王（尚敬から尚泰まで）が、乾隆帝から同治帝まで（西暦一七三六～一八九五）までの六代の中国皇帝に宛てて上呈した表文と奏本で、琉球と中国との交流の歴史を物語る貴重な史料です。（表文の写真については、次ページ下段をご参照ください。）

また公文書館では、展示会で公開した表文・奏本の原本から四十九点をカラー写真に収め、また七十四点をマイクロフィルムに収めました。

このようにレプリカと併せて三種類のメディアで複製物を作成することで、多角的に史料の情報が提供できるようになりました。特別展「琉球国王表文奏本展」の図録とあわせてご利用ください。

寄贈や寄託については、資料第2課（電話 098-888-3875）までご連絡ください。

利用者の声

今号は、三木 靖氏（鹿児島短期大学長・教授、鹿児島県文化財保護審議会会長）からお寄せいただいた「声」をお届けします。



三木 靖氏

沖縄県公文書館への期待

昭和四十二年以來鹿児島短期大学付属南日本文化研究所奄美学術調査団の一員として毎夏、奄美の各地を調査してきた。中世奄美に関心を持つてゐるので、以前より沖縄における奄美調査の推進と、奄美史料の集積に感心してきた。十六世紀奄美が琉球王国の行政領域内だつたのは間違いないが、中世奄美は思いのほか複雑で、琉球王国の行政領域ではない側面や、行政領域内だつたとしても独自の領域性が強い側面も見落とせない。また、この前後奄美では文書に基づく政治は成熟しておらず、文書以外の資料についての考察が肝要だし、奄美が後に道之島とされる背景を奄美に即して検討していくことはこれから課題だ。

ところで、琉球王国についていえば十四世紀から五百年にわたり幕府や朝廷等と正規に交流しつつ、中國とも交流していた。特に十七世紀か

方が新書と沖縄県の歴史の本質角明に大きく貢献するものであると共に、私の関心にも応えている。今夏、当館が五年來の実績を踏まえて「琉球国王表文奏本展」を開催したのは、それらを明確にした意義深い行事で、それを鑑賞できた喜びは大きい。展示は国王レベルの公文書に焦点を絞り、展示当初の十日間は琉球国王から大清国の皇帝に宛てた原文書が公開された。大清国の皇帝に宛てた文書が残っていたことも驚きだが、それが里帰りできたのも異例中の異例である。国王発信の公文書の現物を発信国で見られるケースは滅多にない。冊封を受けていた他のアジアの国で類似のことを予測することはできない。当館の信頼度が極めて高く、その力量が莫大であるから実現できた。

さて、展示を見て蠅頭文字が使われ、皇帝に関する文字を行頭に持つてくる「改行の礼」の頻度の高さ、

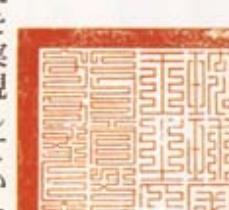
ら、一方では大清国と「冊封関係」を持ち、他方では江戸幕府や鹿児島藩との関係を並行させており、アジアで類例がなかった。この琉球王国の独自性と奄美の琉球王国との関係には興味が尽きない。

この琉球王国の大清国との冊封關係ゆえに、民間・商業レベルで、行政レベルで、そして国王レベルでと多彩な交流があった。この解説は、奄美と琉球王国や鹿児島藩の交流、また琉球王国と鹿児島藩との交流等の解説へつながると思われる。

沖縄県公文書館が開設以来、かつての大清国の中には存在する中国の公文書館である中国第一歴史档案館と連携を維持しているのは、隣国との

文への関心を生み出す
国際交流だつた。これ
は琉球が幕府や鹿児島
藩を凌駕する国際交流を実現していたこ
とを物語つている。

この琉球の国際交流は、幕府や鹿
児島藩の為政者をはじめ、琉球文化
圈にあつた奄美的為政者にも理解で
きなかつた。これは奄美が琉球文化
圏でありながら、鹿児島藩の政策で



清乾隆21年以降の琉球国王之印。右
半分が漢文、左半分が諺文（篆刻）

また今回初めて満文（満州文字）の原本に接した。大清国は華夷一家の多民族（旗、漢、藩で構成される）国家で、中華思想を乗り越えたことを示すものとして故宮博物院の東北にある雍和宮の合璧形式の額がモンゴル文、チベット文、漢文、満文の四種の文字により併記され、現存していることは良く知られているが、琉球国王の公文書が満文を併記していたことを实物で確認できたことは、この多民族国家を実感させる。琉球国王の公文書は満文を伴つて完成したのである。国王朱印にも満文が併記されていることも重要である。大清国との冊封関係は琉球に満

そして鮮明な大判の国王朱印が、本文先端と発信年月日の位置に捺印されていること、さらに末文の捺印が先端の印の位置より下になつていては、この公文書に寄せられた尊厳度の高さを表している。大清帝国での典礼に基づくとは言え、文頭に巨大な朱印を押すのは、当時の日本政界では考えられず、交流の質の高さを示している。



清乾隆21年（西暦1756年）以前の琉球国王印が押されている表文。
表文・奏本とも、サイズは幅23cm～28cm程度、長さは1mを超えるものが多く、当館
所蔵の表文の中には長さ2m55cmのものもあります。

「琉球国王表文奏本展」は当館開館五周年記念特別展として二〇〇〇年八月一日より十一月五日まで開催いたしました。多くの皆さまが訪れてください、好評のうちに幕を閉りました。

「道之島」として切り離されていたのであるが、果たしてそれだけだったのか気になるところである。琉球王国期の公文書を入れた沖縄県公文書館の活動は、琉球の文化と歴史ばかりでなく奄美に関心を寄せる者を含めた各方面から期待されている。

催し物

企画展

公文書館展示室

「空中写真でみる戦前・戦後
基地にかわったふるさと」
平成十二年十一月十四日(火)

「十三年一月三十一日(水)
沖縄県公文書館収蔵資料にみ
る久米島」
平成十三年二月十四日(水)

「三月十八日(日)」
映写会 公文書館講堂

赤色が休館日です。二月一日～十
日は特別休館となります。ご了承く
ださい。

休館日のお知らせ

二〇〇〇年十一月三十日、「琉
球王国のグスクおよび関連遺産群」が
国連教育科学文化機関(ユネスコ)
の認定する「世界遺産」として登録
されることに決まりました。琉球王
國時代の城跡などが、次の世代に残
していくべき人類共通の宝として登録
されました。

表紙は「ペリー提督遠征記」(一
八五六年米国政府発行・全三巻)第一
卷に掲載されたイラストのひとつ
で、世界遺産に登録された五グスク
のひとつ、中城城跡の今から約百五
十年前のすがたを描いたものです。ペリー
艦隊の探検隊が中城城跡を「見事な
石造建築」と評したこと、また城跡
の様子を文や図で詳しく記録してい
ます。

表紙について



公文書館マップ

資料保存講習会	
「資料保存の新展開」	公文書館講堂
午後三時～五時	平成十三年二月二十四日(土)
講師 安江明夫氏(国立国会書館逐次刊行物部長)(予定)	午後二時～四時三十分
（電話予約が必要です）	(電話予約が必要です)

お問い合わせは
098(888)3875まで

資料保存講習会	
「保存容器で資料をまもる」	公文書館講堂
平成十三年一月二十九日(土)	午後六時三十分～八時
(電話予約が必要です)	平成十三年三月十五日(木)
	午後六時三十分～八時

休館日
開館時間

年末年始 年末年始
祝祭日(月曜日に当たる場合はその翌日)
午前九時～午後五時

2月の休館日						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

1月の休館日						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

表紙(上)：琉球・中城の古城

(ANCIENT CASTLE OF NA-GA-GUS-KO, LEW CHEW.) ベリー艦隊の探検隊が中城城跡を測量している様子が描かれています。

表紙(下)：中城城跡平面図

(Ground-Plan of Nagagusko.)

出典： Narrative of the Expedition of an American Squadron to China Sea and Japan, in the Year of 1852, 53 and 1854, Vol.I (Washington: A.O.P. Nicholson, 1856. 沖縄県公文書館所蔵)

発行 沖縄県公文書館
編集 財団法人沖縄県文化振興会
公文書管理部

〒901-1105
沖縄県南風原町字新川148の3
沖縄県公文書館
電話 098(888)3875
FAX 098(888)3879
ホームページ
<http://www.archives.pref.okinawa.jp>

バスをご利用の方は、新川バス停下車
・那覇交通 市内線1番・12番・東陽バス 91番・96番